

## 「ゆく夏を惜しむ熱戦！」



ライバルたちを振り切って最終戦へ！ #70



初優勝も夢ではない！ #15



こちらも速いぞ 1.5 ヴィッツも侮れない！ #11



ポディウムには一歩及ばず #50

2014K 耐久/GT 耐久東海シリーズ第4戦が愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。第3戦が終わった時点で、シーズンの流れを掴んだチームもあるが、本当の戦いはこれから。9月も終わりというのに真夏のような日差しは、このアツキ戦いを応援しているに違いない。

### 「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

6台が出走のこのクラス。#11がマシンチェンジでマーチからヴィッツ、さらには第3戦でデビューした#15「シャトー・ラ☆フィット」は、LSD装着や軽量化などで大きくポテンシャルをアップ。また、#67のデミオもセッティング変え今回の戦いに臨む。現在ランクトップの#70「トータルセブン GT シビック」に追いつがるチームはどこか。

#### ■予選

予選トップは#70「トータルセブン GT シビック」1'05.697、20キロのウエイトがありながらも2戦連続のクラス最速。2位は#15「シャトー・ラ☆フィット」1'06.184、チーム関係者いわく「少しは戦えます」、いやいや大幅なタイムアップで決勝が楽しみ。3番手には#108「IDI マルヨシスターレット」1'06.483で、第2戦以来の優勝を狙う。4番手は秋の風物詩#50「MSCJ 奈良ロードスター」1'06.807、トロフィーを古都に持って帰れるか。5番手、

#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」1'06.856、こちらもポテンシャルを高めて6秒台、決勝に期待。そして6番手はマーチからマシンを変更した#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」1'07.278、このヴィッツは1500のため全車2Cクラスでの戦い。

#### ■序盤

序盤は#70「トータルセブン GT シビック」が危なげなくトップに立つ。2番手争いが混戦で、#50「MSCJ 奈良ロードスター」、#108「IDI マルヨシスターレット」、#15「シャトー・ラ☆フィット」が横一線、#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」もくらくらいつく。#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」はフォーメーションラップ中の追い越しでペナルティ、さらに走行を続行したため、1周減算となり厳しいスタート。ランキングでは2位につけているだけに、ここは切り替えて走りたい。

#### ■中盤

中盤においても優位に戦いを進めるのは、#70「トータルセブン GT シビック」。2番手争いは#15「シャトー・ラ☆フィット」と#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」。それに#50「MSCJ 奈良ロードスター」もしぶとくついていく。#108「IDI マルヨシスターレット」は今一つ調子が上がらないのか、優勝した第2戦のようなペースを刻めず、さらに#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」は縁石に乗り上げてホイールにトラブル発生でリタイヤという結果。前日個別走り込みの成果が出せずに残念ながら戦列を離れる。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■終盤

終盤にかけてもトップを守る#70「トータルセブン GT シビック」だが、2位には、#15「シャトー・ラ☆フィット」が、#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」との競り合いを振り切って上がってきている。今回のフィットのポテンシャルは高く、ストレートにおいてもシビックと遜色ない走り。序盤のつまずきから挽回してきた#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」が現在3位、ここまでが表彰台圏内。#50「MSCJ 奈良ロードスター」は何とか食らいついて最終盤での表彰台に手をかけたい、#108「IDI マルヨシスターレット」は中盤でのコースアウトが響いたが何とか完走を目指す。



中盤でのコースアウトが響いたか #108

## ■最終結果

結局#70「トータルセブン GT シビック」は2位に3Lap 差をつけての連勝となった。が、2位#15「シャトー・ラ☆フィット」は最終スティントのピットアウト時赤信号違反で3分のピットストップペナルティを受けていた。ピットイン時のロスタイムを含めると、結果以上の接戦だったといえる。3位には#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」が入り全戦表彰台キープ中。以下、4位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、5位#108「IDI マルヨシスターレット」となり完走。



タイムは速くなり可能性は魅せた！ #67

## ■総評

#15「シャトー・ラ☆フィット」の速さは本物。レース中の最速ラップもシビックとコマ1秒ほど、やはりLSDと軽量化が効いている。#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」の1500 ヴィッツも速く、これまたシビックと遜色ないタイム。そして今回は残念だったデミオなども6秒台前半で周回するなど、シビック以外のマシンもポテンシャルが上がっている。王座争いではシビックだが、他のマシンにも注目！







## 「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

3Cクラス、今回は7台のエントリー。ニューカマーとしてBMW/MINIのチューニングショップオートディレクションが持ち込んだRA16型のミニクーパー。5MTではあるものの街乗りに近いスペックとのことで、どこまでイけるか注目。

### ■予選

第3戦のウエットとは違って完全ドライのコンディション。予選トップは#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」が堂々全体のPPとなる1'02.317、リタイヤとなった第3戦のうっ憤を晴らす見事な予選。2番手は#110「DXL アライメント浜松レビン」1'02.496、第3戦で初めての表彰台となったレビン、シティ時代に暴れまわった速さが戻ってくれば久々の美酒も。3番手は#450「トルネオの大冒険」1'03.111、こちらも優勝にはあと一歩、だが、第3戦の2位でランキングはトップに浮上、いよいよ初優勝を残すのみだ。

4番手には現在ランク2位の#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」1'03.247、予選5位から今季初優勝を掴んだ前戦のいい流れを今回も見せられるか。5番手#106「D&M スパイクオート 106」1'04.006、インポートカーの先輩の貫録を見せて5番手。6番手には#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」1'05.439、7番手には初出場となる#24「オートディレクション ミニ」1'23.705、完熟走行をしながらの予選だったが、無事通過、グリッドにマシンをつける。

### ■序盤

まず最初のステントでトップに立つのは#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」、予選5位からするするとトップへ。続いて#450「トルネオの大冒険」、#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」の順。#24「オートディレクション ミニ」も徐々にペースをつかむ。

一方、#110「DXL アライメント浜松レビン」は義務ピットが解禁になると先陣を切ってピットイン、続いて#106「D&M スパイクオート 106」、#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」も滑り込んでくる。

第3戦のような天候の変化は無いようではあるが、早めのピット作戦を敢行。

### ■中盤

中盤戦は実力者チーム同士がバトルを展開。トップ#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」を追って#110「DXL アライメント浜松レビン」、#450「トルネオの大冒険」、#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」が2Lap差のなかで争う。絶対スピード的には#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」が一步有利か、シビック勢でも#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」は前戦優勝の20キロハンデがあり少し厳しそう。

車重のある#450「トルネオの大冒険」や、これまでは後半戦にタイヤがタれる(チーム関係者)#110「DXL アライメント浜松レビン」といったそれぞれにポイントのあるチームが後半に向けてどういう戦いを見せるか。

中団では#106「D&M スパイクオート 106」、#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」が今回もバトル。一步抜け出し上位争いに食い込みたい。

初参加の#24「オートディレクション ミニ」、ホワイトラインカットなどもあったが徐々に耐久のレースに慣れてきたようで周回数も上がってきている。



フィニッシュ時の勝率はなんと 100% ! #87



”定位置”復帰まであと一つ #111



またまた届かず #450



実力者らしいところは存分に発揮 #62

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■終盤

終盤戦、トップは#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」がキープ、101Lap。2位には99Lapで#110「DXL アライメント浜松レビン」、3位には#450「トルネオの大冒険」が同じく99Lap、4位#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」が98Lapとなっている。数字上は#87がリードしているが、まだ約一時間あり油断は禁物。

5位走行は#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」で97Lap、6位#106「D&M スパイクオート 106」とここも混戦。3位表彰台をかけての熾烈な戦いはこの日お天気よりもアツい。

#24「オートディレクション ミニ」も79Lapを走行、レース中のタイムも8秒台に入れるなど、ストリート仕様としてはまずまずの走り。このぶんでいけば完走&ポイント獲得。

## ■最終結果

最終的にトップでチェッカーを受けたのは、#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」、そのまま逃げ切ったの今季3勝目。リタイヤか優勝というなかで、今回はしっかりと勝って見せた。惜しくも1Lap及ばなかった2位には#110「DXL アライメント浜松レビン」、懸案だったタイヤのタレも解消されつつありかつての”定位置”復帰まであと1段。3位は今回も惜しかった#450「トルネオの大冒険」、トップまでは2Lap、頂点までもう一歩が続いているがランクトップは死守。

4位は同Lapで#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」、ウエイトハンデが効いたか表彰台には半歩及ばず。

5位は#106「D&M スパイクオート 106」、6位は初参加#24「オートディレクション ミニ」の順。7位は最終盤でタイヤトラブル(ハブの破損)で最終コーナーでストップした#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」。135Lapだが記録上は最下位完走という結果。



今回もしぶとく5位 #106



ミニがサーキットを走る姿は楽しい #24



あと5分... #111 (PHOTO:AE-1)



#110はタイヤの問題も解消されつつあるようだ





シリーズは混戦模様

## ■総評

今一番の混戦バトルのこのクラスにミニが初参加。チューニングの度合いこそライトだが、ミニやクーパの名前が GT 耐久にやってきたことを素直に喜びたい。確かにホンダ車を筆頭とする J-CAR と同じレギュレーションでは厳しいところもあるが、“自分の愛車で愉しみたい”というアマチュアリズムは大切にされるべきと思う。

その意味ではプジョーはもちろん、レビン&トレノ、今回は参加していないがミラージュや BMW も同様、さらにホンダ車でも少々マイナー(失礼)なトルネオといったところの活躍は、このイベントの大きな魅力である。まだまだ楽しみ方の可能性は大きい。



勝たしていただきましてありがとうございます～







今シーズン初出場初勝利！ #6



王座戴冠！ #19



初めての表彰台！ #107



## 「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

4時間耐久の第3戦を制したことでポイント争いではがぜん有利となった、#19「YADOKARIシビック」。シリーズの直接ライバルたちが欠場したことで一気に決めたいところだが、#6「ペンズフレミングシビック」が久々の出場地で地元豊橋対決という構図。#6は優勝経験もある強豪、楽しみな戦い。

### ■予選

予選は#6「ペンズフレミングシビック」が、今季初出場ながら1'02.458でクラストップ、早くも力を見せる。#19「YADOKARIシビック」は2位で、1'04.121。3番手には前戦3位の#58「小林板金 EG6」1'06.959がつけ、4番手にはクラス替えとなった#107「トータルセブンロードスター」が1'07.272という結果になった。若手主体の#107、第3戦までは苦しみながらの完走が続いているが今回はどうか。

### ■序盤

スタートから#6「ペンズフレミングシビック」と#19「YADOKARIシビック」がしのぎを削る展開。最初のスティントを#6「ペンズフレミングシビック」がとればその次は#19「YADOKARIシビック」といった様子で早くも2強の争いか。

3番手#58「小林板金 EG6」は隙あらばこの争いに加わりとう、チャンスをうかがう。4番手#107「トータルセブンロードスター」は序盤まずまずといったところ。

### ■中盤

中盤首位を行くのは#19「YADOKARIシビック」、だが、2位以下に差というほどの差はつけきってはいない。1~2Lap程度で#6「ペンズフレミングシビック」と#58「小林板金 EG6」が追ってくる。さすがに4位#107「トータルセブンロードスター」はトップと差がついてはいるものの、#107も監督の叱咤激励に応え、周回を重ねている。

### ■終盤

終盤になると順位こそ#19「YADOKARIシビック」、#6「ペンズフレミングシビック」の順だがその差は一気に縮まってきた。レース中の最速Lapは予選を上回る2秒083。レースの前半戦におかした黄旗追い越しペナルティを挽回し、トップに肉薄。#19「YADOKARIシビック」は逃げ切れるか。

その一方で表彰台争いも白熱、レース中盤から追いつけてきた#107「トータルセブンロードスター」が3位#58「小林板金 EG6」を視界にとらえる。こちらも最終盤での波乱があるか。

### ■最終結果

アツい真夏のような戦いを制したのは#6「ペンズフレミングシビック」。最終スティントで逆転し、今季初出場で初優勝を飾った。#19「YADOKARIシビック」は逃げ切れず2位に終わったもののシリーズ優勝を決定。

表彰台争いはどうかというと、こちらも波乱。3位を走っていた#58「小林板金 EG6」にクラッチトラブル、スローダウンでストレート上で止まってしまった。これにより同一周回数ながら107「トータルセブンロードスター」が3位フィニッシュ、嬉しい初表彰台を獲得した。

# Race Report

## ■総評

第3戦もそうだったが、やはり耐久は何が起きるかわからない。最終盤での逆転、マシントラブル、その一方でしぶとく走ってのポディウム等。そんな耐久の非情さと面白さがつまったレースだった。

シリーズの行方的には、#19「YADOKARI シビック」のタイトルで決まったが最終戦でのバトルにも期待したい。

また、今回は来ていなかったが、第3戦での”昭和な”FX、MR-Sなど個性的な車種が集まるのもこのクラスの特徴、改造車の楽しみに溢れたこのクラスにも注目してほしい。



最終盤でストップ… #58

